

木村富美子教授のご退職に寄せて

クール・ヘッド&ウォーム・ハート

坂 本 幹 雄

木村富美子先生には約18年近くにわたって、たいへんにお世話になりました。謹んで深く感謝の意を表しつつ、そのお世話になった仕事＝教育＝研究に関して思い出を記していきます。

木村先生は、いろいろなお仕事をされておりましたが、とりわけ近年の本学全体のICT化と通信教育部のICT化の両方で中心的な推進役としてご活躍されてきました。しかし私はその方面ではほとんどかわりはありませんでした。私が最初に本格的に木村先生とお仕事したのは通信教育部の数学だろうかと思います。

1. 数学をめぐって

ある年、通信教育部の数学の担当者が退職されました。事務局から経済学を担当している私に対処するよう依頼がありました。困惑しましたが、同業者である木村先生を推薦しました。「いっしょにご担当いただけますか」とお願いすると、木村先生はご快諾され、私はほっといたしました。この時、木村先生は意欲的な方だなと思いました。

さて使用されているテキスト（若江 1978）を見ると、500頁近くあります。「分厚いなあ…」。内容を見ると、「これは…難しいなあ」。学習の中心になる微分法は、全編にわたって $\varepsilon - \delta$ 論法が展開されています。「これを教えるのかあ…」。たぶん数学科でしか学習しないような代数系の章まであります。地方スクーリングに行ったとき、ある通信教育部の卒業生に会いました。「先生、今日は何の科目をご担当ですか」「数学なんだけど、テキストが分厚く、難しくて、受講生がたいへんそうです」「あっ、私もそれで履修しました。ちょうどよい感じの厚さで、私は好きでした」「さすがっ」。その卒業生は経済学部を首席で卒業した方です。しかしこの方は少数派でしょう。高大連携が課題の時代に、しかも文系の共通科目の数学ですから、アレンジがたいへんでした。かくして今世紀に入って私は数学に膨大な時間を費やすことになりました。おそらくテレビ・ゲームをしていた時間より長いかもしれ

れません。

やがて意欲的な木村先生は、数学者であるテキストの著者の了解を得て、短時日のうちに計算問題中心のハンディーなテキスト(木村 2007)を執筆してくれました。木村先生はよく「私たち経済学者は数学のユーザーです。経済分析のツールとして使えばよいのです。数学者はメーカー側の方です」と強調されていました。受講生の目線に立たれていたようです。確かに以前のテキストは問題の解答が全部はありませんでした。確かに数学者は計算問題の解答よりも定理の証明に軸足があるようです。

ともかく木村先生がレポート課題出題、科目試験(月例試験)出題も担当され、ご退職まで中心者として授業運営をされました。私はカリキュラム改定で新たに設置された経済数学(坂本 2014)の方に水を得た魚のようにシフトしました。それでもご多忙な木村先生のご負担軽減のためか、どこか数学が好きなのか、ともかく年に1・2回、数学のスクーリングを担当してきました。

数学ではまったくありませんが、私はナンプレや漢字パズルを作っていた時期があります。ある年、通信教育部の雑誌『学光』に掲載予定のパズルをチェックのため何人かの先生に解いていただきました。木村先生が真っ先に解いてくれました。「答えは〇〇でしょ」「正解です」。うれしかったです。気をよくしてさらに作って掲載した覚えがあります。

2. 本学創立者思想研究

木村先生は創立者思想研究として2本の論文を執筆しております。ご研究の守備範囲からみて、木村先生の意欲にはまことに敬服いたします。本学会では通信教育部開設30周年記念として本学創立者思想研究書(創価大学通信教育部学会編 2005)を出版しました。編集を担当した私は木村先生に寄稿を依頼しました。木村先生の専門外の思想関係でどうなのかな、と懸念いたしましたが、さすが木村先生、先生なりのアプローチで執筆されました(木村 2005)。さらに本学会では通信教育部開設40周年記念としてやはり本学創立者思想研究書(創価大学通信教育部学会編 2016)を出版しました。この時は全体の始動が遅く、木村先生はご準備をされたものの間に合いませんでした。しかしその論文(木村 2017)は、翌年の本誌の「通信教育部学会設立20周年記念特集号」「特集・創立者思想研究」の1本として掲載されました。諦めず研究を継続された成果であるとこれまた敬服いたしました。

3. 合理主義・計画・整理—マルチ・タスク—

私は日常的に木村先生のさまざまなことばに助けられてきました。私が悶々とし

たり、いらいらしているさまざまな案件で、木村先生の対応・考え方をうかがってみると、目から鱗、何度も発想の転換をすることができました。他者の反応や気持ちを気にして、そのくせ空気を読むのが苦手な私に対して、木村先生はいつも合理的に理路整然と問題対応を説かれるのでした。たいへん勇気づけられました。

また木村先生の業務の計画と研究室の整理・整頓にはいつも感心いたしました。木村先生は、PDCAでどんどんとお仕事をこなされていたのでしょう。「拙速をモットーとせよ」をモットーとし、日常に埋没しがちで研究室の本の森の中に埋もれそうな私とは対蹠的でした。もう1つの私のモットー「着眼大局、着手小局」に立ち返ろう。「私は定年まであと〇〇年」「坂本先生、カウント・ダウンには早すぎますよ」。しかしそれでもできることは限られています。人生は貴重だ。木村先生に学んで、計画を立てて、論文を書いていこう make the work、研究室をもっと整理しよう、とこの一文を書きながら改めて決意しております。

4. クール・ヘッドとウォーム・ハート

経済学の精神を示す有名なフレーズとしてアルフレッド・マーシャルの「クール・ヘッドとウォーム・ハート」があります。たぶん多くの経済学者がモットーにしていると思います。

マーシャルは1885年の母校ケンブリッジ大学の教授就任講演「経済学の現状」の最後に次のように語っています。

「私が、もっとも深く心に期し、またそのためにもっとも大きな努力を払いたいと思っておりますことは、冷静な頭脳をもって、しかし温かい心情をもって (cool heads but warm hearts)、すぐれた人々の母でありますケンブリッジで学ぶ人々の間から、ますます多くの人々が、私たち周囲の社会的な苦難を打開するために、私たちの持っている最良の力の少なくとも一部を喜んで提供し、さらにまた、洗練された高貴な生活に必要な物的手段をすべての人が利用できるようにすることがどこまで可能であるかを見出すために、私たちにできますことを、なし終えるまでは安堵せずと決意して、学窓を出て行きますように、私の才能は貧しく、力もかぎられてはおりますが、私にできる限りのことをしたいという願いにほかなりません。」(Pigou 1925 : 174. 訳31)¹⁾

要するに、周囲の社会的な苦難を打開するために、冷静な頭脳をもって、しかし温かい心情をもって積極的に取り組んでいく数多くの人材を、ケンブリッジから社会に輩出したい。そのために、マーシャル自身が微力ながら全力を尽くしたいと決意表明しています。

いま、ケンブリッジを創価と読み替えましょう。木村先生は本学から社会への有為な人材輩出と通信教育というリカレント教育に多大なご貢献をされてきたのだと確信しております。マーシャル経済学の原点には貧困問題の解明があったと考えられます²⁾。木村先生には「社会保障とベーシック・インカム」(木村 2013)や「人権の観点より貧困からの脱出を考える」(木村 2017)のような論文があることを付記します。

5. 困難を乗り越えて

ご在職中、部署の移動やお怪我をされるなどたいへんな時期もあったかと思われます。木村先生はすべて乗り越えられてきたのだと思います。実にいろいろなご苦労があったと拝察いたします。最後に「木村先生、長い間お世話になり、本当にありがとうございました」と改めて御礼を述べ、拙稿を捧げます。退職後は芸術鑑賞や生け花などご趣味の世界を満喫されるとうかがっております。若々しい木村先生のご健康とご長寿を心よりお祈り申し上げます。

追記

2020年3月、木村先生の送別会が予定されていましたが、木村先生は賢明にも「辞退します」「ほんとに残念ですが、いまは仕方ないですね」。そんなお話をしておりましたが、やがて会議で、通信教育部教員の総意として中止ではなく、延期となりました。いつの日か送別会にて再会できますことを心待ちにしております。

(2020年4月26日)

注

- 1) 訳は多少手を加えています。ご容赦ください。次の訳も参照。Keynes 1972: 224-225. 訳171.
- 2) たとえば次を参照されたい。Keynes 1972: 171. 訳171.

文献

- Keynes, John Maynard. 1972. *Essays in Biography. The Collected Works of John Maynard Keynes* Vol.X. London: Macmillan/Cambridge University Press for the Royal Economic Society. 大野忠男訳『人物評伝』東洋経済新報社、1980年。
- Pigou, Arthur Cecil(ed.). 1925. *Memorials of Alfred Marshall*. London: Macmillan. 永澤越郎訳『マーシャル経済論文集』岩波ブックサービスセンター、1988年。
- 木村富美子 2005「持続可能性と地球環境」創価大学通信教育部学会編『創立者池田大作先生の思想と哲学』(1: 277-292) 所収、創価大学通信教育部学会。

木村富美子 2007『数学』創価大学通信教育部。

木村富美子 2013「社会保障とベーシック・インカム」、『通信教育部論集』（16：52-68）所収、創価大学通信教育部学会。

木村富美子 2017「人権の観点より貧困からの脱出を考える」『通信教育部論集』（20：11-25）創価大学通信教育部学会。

坂本幹雄 2014『経済数学入門』創価大学通信教育部。

創価大学通信教育部学会編 2005『創立者池田大作先生の思想と哲学』第1巻、創価大学通信教育部学会。

創価大学通信教育部学会編 2016『池田思想研究の新しき潮流』第三文明社。

若江正三 1978『数学』創価大学出版会。